

日本社会福祉学会東北部会 第16回福島大会

地域福祉の担い手人材育成の取り組み —A県B市の実施した事業による成果と課題—

2016/7/24

合同会社地域計画 熊谷智義

1.研究目的

- A県B市では、2014年度の地域福祉計画策定と同時進行で、地域福祉の担い手人材を対象に、実践活動に学び、相談技術の向上を目指した人材育成プログラムの構築を試み、研修会を実施してきた。
(2014年度／座学主体、2015～2016年／フィールドワーク中心に実施)
- 研修会の準備及び運営、記録作成など、B市地域福祉課とB市社協と筆者らはA県立大学の協力の下、事務局を担当した。
- 本報告では、2014年度に業務として担当した立場から、人材育成研修の成果と課題を明らかにする。

2

2. 研究の視点および方法

- 人材育成研修会のプログラムや各回の資料など配布、使用されたものから、事務局がプログラムの構成を作り上げたプロセス及び運営状況のふりかえりを行い、人材育成の成果について検証を試みた。
- 研修会全体を通じての成果及び課題について考察した。

3

3. 倫理的配慮

- 日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守して報告を行う。

4

4.研究結果

4-1. B市概要と募集

- B市はA県の県庁所在地で、人口約30万人、民生委員・児童委員は500人を超えている。
- 人材育成研修会参加者の一般公募により、7名が応募した。

5

受講生

受講生	性別	年代	属性
aさん	男	20代	福祉系専門学校生、障がい者支援音楽サークルで活動
bさん	女	30代	まちづくりNPO活動拠点事務局員
cさん	男	30代	会社勤務、発達障害当事者として活動
dさん	女	60代	民生児童委員(一期目)、元医療系技師
eさん	男	60代	民生児童委員(一期目)、元団体職員
fさん	女	60代	民生児童委員(一期目)、介護施設勤務(看護師)
gさん	男	60代	自治会役員、エンジニア

6

4-2. 研修プログラムの構成

- プログラムは、5科目（基礎Ⅰ～Ⅳ、実践Ⅰ）構成とし、各22.5時間（全112.5時間）。
平日 18:30～21:00
（一部、土日の午前～午後、集中講座）
- 各回完結する内容を基本にした。
- 通しの参加者7名以外も自由に参加することが可能な形で参加を募った。

7

基礎Ⅰ～Ⅲの概要

- 地域福祉の全体像を把握することを目的に、主な領域の歴史的な背景や制度の変遷、B市の現状と課題、今後の方向性などを分かりやすく伝える内容。
- 各回、講義とグループワークを組み合わせ、感想や意見、受講生の抱えている課題や問題意識に基づくディスカッションにより理解を深めることが出来るように工夫。

8

研修会スケジュール(例)

- 18:30 開会
- 18:35~18:40 本日の内容・進め方
- 18:40~19:30 講義
- 19:30~19:40 休憩
- 19:40~20:50 グループワーク
- 20:50~21:00 ふりかえり・閉会

9

基礎 I 『現代社会と地域福祉』

- 県立大学社会福祉学部C教授、市社協からの指導・協力を得て、地域福祉の各領域「高齢者」「子ども」「障がい者」全体像を示した。
- 「現代社会と福祉」、「B市における福祉行政の概要」や「市社協の業務内容について」などのプログラムを実施した。

10

基礎Ⅱ『地域福祉の課題』

- 基礎Ⅰで概観した「高齢者」「子ども」「障がい者」の領域について、それぞれをさらに掘り下げた内容とした。
- 基礎Ⅱの最終回には、共通する課題として、「生活困窮者対策」に関して、地域福祉課からの説明と質疑や意見交換を行った。

11

基礎Ⅲ『社会福祉行政の展開・ソーシャルワーク』

- 基礎Ⅰで概要に触れたB市の福祉行政各分野及び市社協の仕事について、詳細な内容とした。
- このうち、市社協の「地域支えあいマップ」に関しては、実際のマップづくりの一部を演習課題により擬似的に体験するものとした。

12

基礎Ⅲプログラム

基礎Ⅲ 社会福祉行政の展開・ ソーシャルワーク (22.5時間)	10/3(金)	第1回 地域支え合いマップ * B市社会福祉協議会の仕事②	B市社協・担当者
	10/30(木)	第2回 サロン活動について * B市社会福祉協議会の仕事③	B市社協・担当者
	11/20(木)	第3回 在宅福祉について * B市社会福祉協議会の仕事④	B市社協・担当者
	11/25(火)	第4回 社協の役割及び可能性 * B市社会福祉協議会の仕事⑤	B市社協・担当者
	12/7(日)	第5回～第7回 * B市の福祉行政②③④	B市地域福祉課・担当者
	12/20(土)	第8回～第10回 * ソーシャルワーク②③④	県立大学・C教授

13

基礎Ⅳ・実践Ⅰの概要

- 地域福祉の実践に向けて、地域の現状把握や課題の抽出、解決策の検討に向けた会議のあり方、分析と検討や計画づくりの手法を学ぶ。
- 策定中のB市地域福祉計画における主要な課題や展開方向について、集中講義方式を組み込んで学ぶ。

14

基礎Ⅳ『地域課題の把握と計画』

- 地域における「サロン活動」や「地域支えあいマップ」などの活動とめざす方向に共通点がある「地域づくり」の理解を深める。
- 策定中の『第2期B市地域福祉計画』の内容、重点的な課題や新たな課題について、多様な専門職ゲスト講師を交えて学習。

15

実践Ⅰ『地域福祉実践演習』

- 基礎Ⅳに続き、『第2期B市地域福祉計画』の主要な課題を集中講義方式で学ぶ。
- 「コミュニティ・ソーシャルワーク」や「地域包括ケアシステム」などに関して、専門職ゲスト講師からめざす方向についての説明と質疑や意見交換を行った。

16

プレゼンテーションと記念講義

- 5科目終了後、受講生が学んだ内容をふまえ、「それぞれにおける地域福祉の展開」と題して、7名がプレゼンテーション(15分/人:発表10分、質疑5分)を行った。
- その後、2015年度以降関わって頂くD大学E氏を講師に、今後の展開に向けた記念講義「地域福祉とコミュニティデザイン」をお願いした。

17

受講生と発表テーマ

氏名	テーマ	備考
aさん	ボランティアからはじめる地域参画	音楽支援サークルM代表
bさん	地域包括ケアシステムの補助的役割を持つ町家を活用したシェアオフィス ～私のN町の“カジュアル福祉”～	Bまちなみ塾・Yプロジェクト
cさん	「『(軽度)発達障がい当事者の地域生活マニュアル』作成事業」の提案	NPO法人Mの会
dさん	はずして つながる (MG地区ならではの「ドッグラン」)	MG地区民生委員児童委員
eさん	それぞれにおける地域展開	MN地区民生委員児童委員
fさん	誰もが安心して生活できるKKめざして!	KK地区民生委員児童委員
gさん	それぞれにおける“地域福祉”の展開について	TG町内会

18



地域の課題・問題意識

今の公民館は耐震補強をしません。2階建てになっていて、2階には20畳程大広間があります。狭く急な階段を上らなければなりません。1階は8畳と6畳の2部屋の他、台所とトイレがあります。小会議の時、8畳の部屋を使用します。一番多く使われる部屋は2階の大広間です。高齢者の方々は2階に上るのが怖いと言います。全員の参加を希望します。とても残念に思います。誰もが安心して参加できる場所であればならないと思います

1.地域の課題

- 活動の顔ぶれ、交流者（参加者）はいつも同じ、企画メニューに苦慮し、参加人数低迷
- 「しくみ」は出来たが、目標、目的を見失い横の連携がなく、活動が単発に終わる
- 人材がもっと必要にも拘らず、町内会の活動が周知されていない（役員公募もしない）
- 行政の地域頼み（地域への期待度が高い）が、住民に理解されてていない
- 地域の各団体等の活動状況の開示努力なし
 - 地域の柱（核）でもある「学校」との連携が不透明
 - 最近では、授業中、近隣で起きた凶悪犯罪の対応等
 - 学校運営会議 コミュニティスクールは
 - 町内会と子供会（小学校） 親の会（中学校）との関係

地域の資源としてのボランティア

- ▶ 点在する「資源」としてのボランティアを地域の組織・機関がどう活用するか

例えば...

- ▶ ボランティアを育成して担い手を増やすのはいいが、**地域活動に繋がらないケースが散見**
- ▶ 育成したボランティアが地域の組織・機関と結びついていない

⇒地域協同をみずえた育成が必要になる



5.考 察

5-1. 本研修会の成果

①専門知識と実践的内容を学ぶ機会

- 中核的な担い手の育成に一定の成果。
- 基礎的な専門知識と共に実践的な内容を学ぶことで、相談対応、課題発見解決、まちづくり、問題解決に関わる内容を学習。

↓

- 7名全員のプレゼンテーション

20

②実践的ネットワークの構築

- 地域の課題は、複合的で包括的なものが多く、その対応には、多様な専門職との連携、多様な社会資源の活用、ネットワークの構築が重要。



- 講義を通し、高齢者介護、障害者生活支援、若者サポート、成年後見制度や児童虐待、認知症対策などに携わる専門職・ゲスト講師から、実践的な内容を学び、交流(→ネットワーク構築へ)。
- 毎回の意見交換、経験交流により、受講生が相互理解へ。

21

③プログラムの体系化

- 本事業を通じて、「高齢者」「子ども」「障がい者」から、「福祉行政」「社会福祉協議会の仕事」「ソーシャルワーク」、また「認知症」「成年後見制度」「ひきこもり」「児童虐待」などの課題、新しい「地域福祉計画」の概要や「地域づくり」など、プログラム化。



- 一連の研修内容で、地域福祉の範囲をカバーし、結果的に地域福祉の人材育成に向けた研修プログラムを試行的に体系化。

22

5-2. 研修取り組みの課題

①継続的な研修の実施

本事業を通じて、地域福祉の研修プログラムの体系化を試みたことから、継続的な研修の形態を構築し、対象を拡げて実施していくこと。

②運営体制の構築

本事業は単年度の予算によるため、今後の継続的な研修事業の展開に当たっては、予算の確保と運営の担い手の体制を構築すること。

③連携による活動の推進

今後の研修会等によって、専門性が高まった人材が地域で活動する際、各地区の民生委員・児童委員や町内会役員、コミュニティ・ソーシャルワーカー(2015より配置)などと協力・連携すること。

23

5-3. 今後の研究課題

- その後の人材育成研修会として2015年度、2016年度には、フィールドワークを主体とした取り組みが行われていることから、全体を俯瞰した評価を試みるのが今後の研究課題として挙げられる。
- 参加者の満足度など、受講生からの評価を得ることも、今後の課題である。

24